

第1回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和4年7月29日（金）午後7時から午後9時まで
場所	尼崎市議会棟議員総会室、第1委員会室、第2委員会室
出席者	（委員） 足立委員、渥美委員、江田委員、大槻委員、田井委員、中西委員、久委員

■議事内容

1 開会にあたって

傍聴者の確認

傍聴1名

2 意図や問いかけの説明

生涯、学習！推進課長（事務局）から審議会の進め方、議題の意図や問いかけの説明を行った。

問いかけ1：「評価した着眼点」に基づき取り組みを評価する手法を続けたいがどうか。

問いかけ2：公民館からプラザへの再編時の社会教育委員会の答申「社会教育の継続性・安定性に資する事業の継続を」等の意見に対し、我々としては意見を反映した事業を進めていると考えるが、委員の印象はどうか。助言もいただきたい。

3 令和3年度の地域課取組の振り返りについて（審議）

3グループに分かれて、グループ内で審議を実施。

4 全体共有、質疑応答

○委員（小グループ代表）

我々のグループは武庫地区、園田地区の地域振興センターの活動をご紹介いただいた。その活動が面白く、質疑応答もいろいろとあった。

評価した着眼点の問いについて、良いのだが「誰がいつ決めているのか？」という問題がある。事業の今後の方向性や改善点を書いていただいているが、事業に合った着眼点を次々と後付けしてはいけない。着眼点はいつ、誰が決めるのかという点が少し気になる。

もう一つのプラザ再編時の社会教育委員会からの答申が反映されているか否かという問いについては、資料3の表を拝見しているとできているし、頑張って取り組んでいると思う。一方、いくつか問題点があり、継続してやっているということはイコールでマンネリ化を招いていることもあるのではないかと。いつも同じことを続けている可能性があり、それが表現できない表になっているのではないかと。例えば、平和だったらウクライナの事、人権だった

らマジョリティー特権など、内容を時代に即して変えたこととか、今回新たに取り組んだことに印をするなどうまく表に出るようにしたい。

そして、現場の悩みとして、色んな企画は出てくるがマンパワーが足りないとの意見が出た。それでも頑張っているという点も、この表には出てこないということや、農業にまつわる事業も行ったが、シートに入れようがないということなど、全ての事業や取組を書くシートではないとはいえ「やっていますか？」との問いに「はい、やっています」というのは表でわかるが、というところで議論は止まった。

○委員（小グループ代表）

小田と立花の地域振興センターの方々と一緒に良い議論をしたが、先ほどのグループと同様に具体的事例で盛り上がり、今日のポイントをしっかり議論するとまではいききれていない。

まず一点目の話は、議論ではなく私の意見になってしまうが、評価した着眼点は良いと思う。しかし、評価する着眼点というよりも事業の目的や目標ではないかということで、最初に目的や目標がきちんと決まっていれば、最後に達成できたか否かという評価ができるため、後々ではなくて最初に事業の目的・目標を共有すれば良い。

立花は中学生、高校生、大学生という若い人たちをターゲットにいろいろな事業を行っているし、小田も64歳以下に限定して井戸端会議を復活させている。年齢層を下げているが、若い人と言ってもいろんなタイプがいる。例えば、もう既にいろいろ活動してキラキラしている人もいるだろうし、これから入口を探していくという人もいるだろうし、ざっくり括るのではなくて、そういうターゲットに沿って、いろんなことをやっていってはどうかと思う。どうしても元気な若い人たちを市役所や地域振興センターは取り込もうということになってしまうが、そうではなくて、その人は機嫌良く活動しているわけだから、そこは取り込まないで勝手にやってくれたら良いのではないかと。ただ、せっかくその力があるのだから、誰かと繋げていったり、あるいはいろんなイベントに協力してもらったりして、いろいろな関係を結ぶことができれば良いのではないかという意見が出た。

二つ目の話だが、これはなかなか難しいお題で、いろいろ頑張ってくれているが、この審議会委員の中には他都市や本市で社会教育委員会議長の議長をされているメンバーがいる中で、やはり社会教育の専門性というものがいるのだろうとっていて、そのあたりは十分なのか疑問点がある。地域課の全ての職員が専門性を高めるのはすごく難しい話だが、その専門性の裏側にプログラムがストーリー化されて、展開するということが今後必要である。その一方で、それぞれの分野の担当課があって、それは専門性として持っているわけだが、議論の中では、その専門性はあるけれど、それを市民と一緒に講座を組んだり、広く市民の方々に伝えていくという術がその担当課にあるかということとそうではないところもあり、地域課とうまくタッグを組んでやっていくなど、もっと連携が進んでいけば良いとの話になった。

総合計画のいろいろなページに啓発という言葉が出てくるが、啓発の一つとして社会教育もあると思うので、そこをうまく地域課の方々と、その専門性を持った方々が連携し、啓発がどんどん進めば良いと思った。

また、立花南生涯学習プラザで野菜を植えているとのことで、勝手に野菜を取られるなど

のトラブルが起こるのではないかという意見が出たが、トラブルをみんなで解決すること自体がシチズンシップの教育にもなるので、そういう意味ではトラブルを怖がらずにトラブルが起こって、そこからシチズンシップ教育が発展できるのではないかという話も出た。

○委員（小グループ代表）

一つ目は、防災を通じたシチズンシップの向上で「コミュニティ参画への意識を高める機会となったか」との着眼点で、元々大庄地域は武庫川氾濫への危機意識がすごく高い地域であり、防災訓練を単体ではなく、学校の単位を超えて合同で進めたらどうかと提案いただいた。他地域では学校単位でなかなかまとまりにくい連協もあり、難しいということもある。

また、防災に関して子供はあまり興味がない。一方で子供食堂に関して、子供は勝手に来るが、大人があまり興味がない。この二つをそれぞれ視点を変えて、防災に関しては、もっと子供が興味を持てるような取り組みを、そして子供食堂に関しては大人がもう少し興味を持っていくような視点というのが大事なのではないかと意見が出た。杭瀬では子供食堂に大人が興味を持って、あの人はお金をいくら払ったからうちはいくら払うというような、杭瀬タウンの独特の雰囲気が出ているということがあった。防災に関してもやはり、大人がしないといけないことがあるが、子供に関しては全く興味がないので、それを上手くゲーム形式のようなプールの水を放水するとかそういう感じで楽しみながら防災を学ぶという視点が必要との意見が出た。

二つ目の問いに関しては、私が社会教育委員会議長をしている時に、これまで公民館が6つしかなかったところが12のプラザで事業ができるという話を聞いていたはずだが、それが実際にできているのかなというのが、このリストではなかなかわからない。小田、中央という感じでそれぞれの地区で区切っているので小田の北と南で同じように出来ているのか、中央の北と南で同じように出来ているのかということがわからない。実際に中央地域課長に話を聞いても、中央に関しては、中央北生涯学習プラザは真新しいし、いろんな意味で用意はしやすい、準備がしやすい、取り組みやすいというところがあり、中央南生涯学習プラザと比べると事業が偏っているとの話があった。当時の社会教育委員会議会で委員の皆さん全員が12ヶ所のプラザでできるなら、それは良いことじゃないかと最終的にGOサインを出したが、まだなかなかできていないのかなと感じる。

あと、指定管理業者の選定委員のプレゼン有的时候に、ある委員が公民館というのは子供の居場所、特に学校になかなか行きづらい子供が、朝や昼の早い時間から行ける場所であると発言されており、生涯学習プラザは実際にそれができているのか？できるようになるのか？と質問していた。この機能に関することは、このシートに落とし込まれていないが、そのような受け入れ体制ができているかというのは、やはり心配だと思った。

△市長

○○委員より社会教育の専門性という発言があったが、社会教育の専門性とは何かと思う。今、社会教育主事を語源とする地域課職員の研修『主事会』を行っている。市長部局で主事を育成していかないといけないと思っており、その中で着眼点を議論し、着眼点を内面化して地域課職員が主事として動けるようにならないといけない。今、求められている社会

教育の専門性は何なのか。

○委員

私は社会教育だけの専門性と言っているわけではなく、例えば人権の問題はその人権として伝えないといけないという話もあるだろうし、今の新しい家庭教育としてどういうことが必要となっているかみたいな話は、やはりしっかりと押さえておかないと、どういう講座をして、どのように、誰に伝えていくかというところのその柱となる部分、あるいはストーリーみたいなものがあるのではないかと。

その一方で先ほど話したように、担当課がその市民の意識啓発みたいな話を書いているので、しっかりと柱を持っていらっしゃる。その専門性をどのような形で、このプラザの講座とか、いわゆるシチズンシップ教育に繋げていくかというストーリーみたいなものができていますかという意味で専門性はどうですかと投げ方をさせてもらった。

△市長

つまり、取り上げようとしているテーマについての専門性と、その専門性をより効果的に学べるような作りになっているかとか、仕掛けができていないかとか、マンネリだけじゃなく新規の対象者にリーチできているかとか、そういう社会教育的な着眼点と、その取り上げている実際のテーマの目標、何を伝えたいのか、何を共有したいのかというような専門性が両方あるよね、という受け止めで良いか。

○委員

そうです。防災という観点で一つ共通テーマがあった。どのように展開するかというのはそれぞれのプラザや地域でバリエーションがあっても良いと思うが、何をどう伝えるべきかというような柱はブレたら駄目だと思う。そこをちゃんと抑えていますか？具体的にはそういうことである。

△市長

では、例えば、いわゆる社会教育主事がやろうが、プラザの地域課職員がやろうが、防災の視点から今優先順位が高いことをしっかり取り上げられているのかとか、伝えられているのかとか、そこの抑えもいるよねということですね。ありがとうございます。

5 市長より説明 次回の審議会で議論したいテーマ

△市長

今、配布した資料は、人権施策の振り返りシートで、これも今年から始めたばかりで試行錯誤中だが、今回はかなり議論が重複していたので慌てて用意した。〇〇委員、〇〇委員がおっしゃっていたように、この着眼点を後付けで綺麗に整理しても、少し意味がない、少し違うのではないかとするのはおっしゃる通り。今、私達は人権も条例と計画を作り、今まで漠然と思いやりのように思っていたものを人権というのでは少し足りない。やはりライツ (rights) として、数えられるこの人権をしっかりと私達は捉え直す必要があるという問題意識

で人権施策、人権学習を進めている。

だから、この振り返りシートでいろいろと議論すると、やはり私達が今まで人権施策の中で十分に持ててなかった着眼点というものをまず意識しようとしている。例えばマジョリティー特権みたいなものがあるのではないかな等。そういった着眼点から事業を組み立てて、こういうところがまだまだ弱いのではないかな、抜けているのではないかな等、この着眼点から見たときに良い取り組みができたかといった形で、人事評価におけるコンピテンシーのような使い方で、この着眼点を使っていく、つまり後出しじゃんけんで評価するのではなくて、ここを強化したい、ここを強く意識したいということをおろかじめしっかり出しておいて、それを意識した事業を作って、どうやったかやってみた後に振り返るということを、この人権分野ではやってみようということをお始めしている。人権は生涯学習とは別に人権の審議会があるので、この振り返りシートはその人権審議会の先生方に外部評価をお願いするということになっていて、この生涯学習審議会と重複する。人権というパートだけで考えれば、もう少し人権審議会と生涯学習審議会と役割分担をしてはどうかと思っていて、そういったことも、この私の話に繋がるということで、急遽に配らせてもらった。だから、まさに社会教育とは別に人権だけでもないので、どうしてもオーバーラップする。

次の総合計画の施策1の抜き出し、施策1：地域コミュニティ・学びというものを配布している。全部で13ある施策の1丁目一番地である施策1に、この地域コミュニティ・学びを持ってきた。それは、例えば、環境問題、子育て支援、産業振興等の様々な施策、政策というものはアプリケーションのようなもので、それぞれのアプリケーションがしっかり機能するためには、もしくはそのレベルアップを図るためには、OSがしっかりしてないと話にならない、OSが脆弱なところにハイパーなアプリを走らせることはできないという話をしている、まさにこの社会教育を含む学びと地域コミュニティというところがOSではないのかという思いで、1丁目一番地である施策1に持ってきている。

その中で、これまでから様々な形で行っている学びと地域発意の取り組み、自治に繋がるような、協働に繋がるような取り組みをもっと促進していこうという、この(1)地域コミュニティの醸成、生涯学習の推進という流れに加え、いわゆる文化活動、例えば公民館でもコーラス、手芸サークル、絵手紙を練習されている方々など、文化活動もすごく活発で、そういった中で人の繋がりや自分自身をまた高めて、それをまた人に喜んでもらうために発揮するみたいなこともあり、この文化というものも実はすごく関連性が深いと思っており、歴史博物館や図書館、地域研究資料館といった尼崎のこれまでの織りなしてきた地層というか歴史でも、たくさんのボランティアの皆さんが学び活動してくださっている。それは各地域の魅力の発掘や発信とも、非常に密接にリンクをしており、この分野と社会教育も切っても切り離せないだろうと思っている。

スポーツ、健康作りも極めて関連が深く、競技スポーツの大会の誘致等になると少し違和感が出てくるが、高齢者のスポーツクラブ21等は強固に地域と組んでやってきている。ご高齢の方のコミュニティや健康作りにもこのスポーツが欠かせない状態になっている。

人権は施策2に来るが、これだけの多様な場でこの施策1、施策2がかなりベースの部分と考えている。人権もOSという議論もあったが、でもそこまで入れるとさすがに大きくなり過ぎるので、施策1が地域コミュニティ・学びで、施策2が人権尊重・多文化共生という

つくりが、新しい総合計画では採用された。

施策1に関係する会議体はこの生涯学習審議会、2つ目に図書館、歴史博物館、学校協働本部の取り組みを議論していただいている社会教育委員会議。3つ目に文化については様々な取り組みの審査委員さんがおられ審議会はないので、今度、文化振興ビジョンを改訂するにあたり、どうするかと今議論している。そして、4つ目にスポーツは審議会があるという状態である。

これを、新しい施策の再編に合わせて、どうしていくか、審議会サイドも再編が必要だろうと内部で議論している。参考となる会議体は、社会保障審議会、社保審と呼んでいるが、社会保障審議会も多岐にわたるので障害者、高齢者、地域福祉の部会といったテーマごとに、元は1個の審議会だったものを分科会として位置づけている。なお、子ども施策は別審議会になっている。この分科会だけに入ってる委員もいれば、この分科会から本体の横ぐしの全体会、いわゆる社保審総会にも分科会を代表して出てくださる委員もいると位置づけられており、この総会（全体会）でそれぞれのテーマのことをちゃんと横ぐしで見渡すというつくりになっている。このやり方が良いのではという話で、昨年から都市計画審議会も同じ方式にした。都市計画審議会は横串で全体をさしているが、その中で、住宅環境、公園緑地、都市美・景観行政の審議会等というようにこれも1個、1個割れていたが、本当はお互いの関連性がすごく深いので、これを分科会に位置づけて横串の全体会、全体総会の審議会を作るというやり方に今チャレンジを始めた。

そこで、このOSだと思っている施策1地域コミュニティ・学びも、関連性が深い会議体に横串を通したいと感じている。例えば図書館では中学校に図書館司書を配置することになったことや、旧公民館の生涯学習プラザには図書スペースがあり図書館とシステムでつながっているが、旧地区会館の生涯学習プラザは繋がってない等の課題解決に向けて図書館でどんな議論がなされているかは、残念ながらこの生涯学習審議会では全く共有がされてないというのが実態である。だから、これで良いのかという問題意識を持っており、1つのアイデアとして、この施策1に込めた様々な分野を横串で刺すような機能を生涯学習審議会の再編で持たせたい。地区の学び、学びと活動の循環といった、生涯学習審議会でも積み上げてきたことはそのまま残しつつ、現在十分に繋がりがきれてない会議体をつなぐ。場合によれば人権も軽く報告し合う。先ほどご紹介した社保審と子供審議会の双子のような関係と同様に、人権審議会と生涯学習審議会も双子のような関係とする。生涯学習審議会の中にいろんな分科会があり、それぞれのメンバーがちゃんと専門的に議論しているが、横ぐしを刺せる仕組みを持たせたい。

もう一つ重要なことは、この全体の中で、教育委員会と市長部局が情報を共有したいということ。今は教育が所管の社会教育委員会議の議事録等は、こちらがよほど興味持って読まない知らないまま過ぎていく。教育委員会の方も市長部局の議論を十分にフォローするというのは義務付けられてない、当たり前にはなっていないので、スポーツ審議会は教育委員会が所管しているが、そういったことはそのまま生かしつつ、この横串を本当に市長部局と教育委員会のブリッジでやるというようなところを少し進めながら、走りながら考えていくというのが良いのではないかなと今のところは思っているが、そういった今後の審議会のあり方について、皆さんにぜひご意見をいただきたいというのが次回の議案となっている。

○委員

審議会がいろいろとあるのはわかるが、全部で何個あるのか。例えばこの学びの話でも、交通の審議会というのは学ぶ権利の保障なので非常に関係する。というようなことを思うと、趣旨には全く賛成で仮に全部で100個なら100人集まったらと良いと思う。一覧みたいなのはあるか？

△市長

一覧のパンフレットを配布する。私は市長に就任してから全く同じ事を思い、線引きだけ助けてもらい、どこで、なんの計画が改定されていて、どことどこがくっついていないといけないうか可視化してほしいと伝えた。そこで、審議会がだいぶ整理もされてきて、その審議会の主だったところの代表者ばかりが集まる施策間連携サミットという会議を始めている。先日、これについて市民派議員の勉強会で報告をすると、「市民に公開しているんですか？ それ！めっちゃ面白そうですね！」と言われたが、「すみません、残念ながら市民への公開は全然至ってないんです」という話になり、最後は百人委員会にすることもなくはない。問題意識としては共通で思っている。今、生涯学習審議会が一番、再編がなされていない分野になっている。

○委員

実はこの4月から科長をやることになり、大学とはどうなっているのか初めて気になり出した。それは1年目の話で、市長も12年もやっている中で同じ問題意識があると改めて感じたが。

△市長

12年やっているから、だいぶ整理は進んでいる。

○委員

私は整理する権力はないが、しかし何かあるかということについてわかる必要性をずっと感じておられるというのは大事な点。その赤裸々に全部わかることが良いことかをよく考えた方が良いかもしれないが。

△市長

そんな隠し事もない。

○委員

我々も意思決定機構がどうなっているか等を考えるときりがない。ただ、市民に公開しているかどうかは大事。その辺についてもきちんと考えた方が良さそうなので、簡単に済む話ではないが、じっくりと議論できればという大事なことをご提言いただいたと思う。

△市長

もう一つ、先ほどの議論の振り返りのところでも〇〇委員のグループから市民との双方向の振り返りは出来ているかと話が出ていたが、まさしくおっしゃる通りで、今、総合計画全体で市民の皆さんと一緒に振り返りをやって、それをまたエピソード評価、白書のように事例を共有するような仕掛けにできないかと、この総合計画全体の市民と一緒にやる振り返りをどうするかと議論している。

今回、この地域別シートを見ていただいた。この総合計画の中で施策1という全体からの振り返りは他の施策通りやるが、所掌範囲が広く全然書ききれないので、プラス6枚地区ごとのシートを作ろうと今回初めて作ってみた。なので、着眼点の話も含めて弱い着眼点を来年度は意識してみるコンピテンシー的な使い方が良いのか、あるいは元々の着眼点シートは、例えば参加者をたくさん増やしたいと思い始めた事業だけど、その着眼点からはこけて、でも別の着眼点から見たら実はプラスの事もあったというような多面評価ができなければいけないのではないかという、ここの議論を審議会ですべていただいて多面評価の為のツールとしてこのチェックシート作ったが、今多面評価を意識するのかコンピテンシー的に使うのか、まだ我々も曖昧なままだが、この着眼点をもっと生かした振り返りをしようって事だけが決まっている。なので、地域別シートについては、今日のご意見を踏まえて内部でも議論し、また腕を上げていきたい。こういった6地区のシートのチェックも必要で、やる事が多くなっているが、様々な組合せの中で本当は市民の皆さんと共同で各地区でもやる、地域全体でもやる。だから6プラス全体ができたなら最高と本当は思っている。しかし、まだ全然そこまでたどり着いていないという状況。

○委員

最後の部分をお聞きして、事前に生涯、学習！推進課長にお話したが、こういう評価は精緻にすればするほど細かいところに落ち込んでしまうため、そうではなくてもっとざっくり大きなところを考える視点がないと連携みたいなものできないのではないかと。

例えば、奈良県の橿原市の総合計画の評価の際に、人権の分野のところでは人権って何が一番大切ですかと要点を聞いたが、細かい話が出てくる。私なりの整理はマジョリティーとマイノリティーと言うように二つに分かれてしまい、マイノリティーの部分に様々なしわ寄せがいつてしまっているのが人権問題で一番問題ではないのかと。そもそもマジョリティーとマイノリティーを区切るところに問題が発生する根っこがあって、1人1人の個性が違うのに、グルーピングしているところをどう考えていったら良いのかという話になった。

それから、偏見というのは偏った情報を鵜呑みにするから偏見が起こるのであって、これは情報リテラシーの問題じゃないか等、いくつかポイントがあるはず。そのポイントを担当者が喋れるかどうかというところがポイントだと思うので、そういう意味では生涯学習もどういうようになっているのか、ざっくり言うと一分で喋れますかみたいな、そんなところも重要じゃないかと改めて思った。

もう一つは、先ほどの総合計画の施策1の中でいえば、例えばこの自治体の規模であれだけ立派な歴史博物館持っているというのは、これは尼崎の財産。尼崎の資産というものを市役所として持っており、そういうものを誰がどういう形でちゃんと評価をして、この審議会

と繋いでいくのかみたいな、そういう尼崎らしきみたいなものも次回提供してほしいと思う。

6 振り返り・感想

○委員

自分の中で、思いもつかなかったことを教えていただいたり、私だったらこうかな、うちの地区だったらこうかな、隣だったらこうかなといろいろ頭の中でぐるぐるぐるぐる回って、今日も頭でっかちになって帰ろうと思っている。

○委員

年に2回か3回しか集まらない社会教育委員会議だったので、本当になかなかできなかったと思うが、ただ、良いように変えていくのは大事ですし、やっぱり我々役員もメンバーも忙しい中、時間を調整して会議に参加しているので、できるだけその会議で出た意見がいろんな人の目に触れるようなそういう場ができるのはすごく良いし、何とか良い形で展開できたらと思う。

○委員

一言でお腹いっぱい。本当にいろいろ勉強させていただいて、横串って何？これは縦割り行政云々のお話でいつも出ている話で、その縦割りの隙間を埋めるために私ども社協が担い手となってほしいと昔から言われているところ。また勉強させてほしい。

○委員

今日も本当にいっぱい勉強させていただいた。私も最近の地域活動サポーターとして、地域の活動のお手伝いをさせていただくことによって、地域振興センターの皆様の頑張りも目にするようになり、さらに今日の内容も深く紐解くことができた。また次回もお腹いっぱいになりそうなぐらいの議題がありそうなので、元気に体力を保ちながら参加させていただきたいと思う。

○委員

私も自分の活動しているところの目線からは見える気がしていたが、今日いただいた資料を読んでいると、どうしてそう至ったのか全然知らなかった。例えば、家庭教育とは何をしたら家庭教育なんですかって久先生にお伺いするぐらいよくわかっていなかったところがあって本当にすごく勉強になった。ただ、あの私もわかってなかったですけど、市民の方が見てもわかりにくい部分はあると思うので、恥ずかしいですけど、わからないことはわからないってこの場で聞こうと思った。

○委員

私もいっぱいいろいろお話、情報交換をさせていただいたが、ワークショップ形式で40分に二つを積み込むとちょっとしんどいなという気がするので、もう少し時間をいただければゆったり話ができるのかなと思った。

○委員

私からは〇〇委員が言っていたが、評価が細かくなるとだんだんマニアックになっていくというのはその通りで、ざっくりと、でもざっくりとすると今度は「ええことやってはりますな」ぐらいの話になってしまうから、この「ええ所」をどうしたら良いのかなというのと、それからもう一つは、市長から横串を刺すとあったが、市民が普通に生きていると一まとまりになっているのを役所が切り刻むからそういうことになるのであって、普通に市民の人と交えて話をするということから、原点に立ち戻ったら良いのかなとも思った。でも、これ全部、偉そうなこと言ったのは自分も同じ目に遭っているからで、ちょっと考え直したいなと思った。

▲生涯、学習！推進課長（事務局）

次回の令和4年度第2回生涯学習審議会の日程については、10月に開催を予定している。日程調整の上、各委員には速やかに連絡する。